

日本臨床催眠学会理事長就任挨拶

日本臨床催眠学会理事長

水野泰行

関西医科大学心療内科学講座

関西医科大学附属病院痛みセンター

このたび 2025 年 10 月 12 日付で日本臨床催眠学会の理事長を拝命いたしました。臨床、教育、研究の第一線でご活躍の会員の皆さまにご挨拶申し上げます。まずは日頃から賜っております皆さまのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

本学会の目的は、催眠の臨床応用を探究し、その有用性を広く普及させることにあります。そのために、催眠に関心をもつ臨床家・研究者が安全に学び、相互に交流できる場を提供し続けることが、私の基本方針です。私の専門分野である心身医療において、催眠はかつて治療の中核をなす心理療法でした。ところが残念なことに、現在では催眠を臨床で実践する医療者や心理職は激減しています。では催眠は魅力を失ったのかというと、むしろ逆です。折に触れて、催眠はどのように学べるのか、どのように使えばよいのか、どのような疾患に有効なのかといった質問を受けることが少なくありません。興味のある人と学ぶ機会、そして実践する場とが十分に結びつかなかったことが、ここ数十年で催眠が衰退した一因ではないでしょうか。

私が理事長として取り組みたいことは、大きく分けて三つあります。

まず研修会の充実と、臨床で使える催眠の普及です。基本的な催眠誘導の技術を繰り返し学べる機会を整えるとともに、催眠誘導を用いた心理療法を実施しにくい職場環境にある方にも、診療の質を高める形で活用できるような工夫を提案したいと思います。さらに「技術は学んだが、臨床でどう応用すればよいかわからない」という声に応えるべく、事例検討会や実践的な研修を展開します。

次に国際交流を促進します。アジアや欧米の催眠学会との継続的な交流の機会を模索し、わが国の臨床現場に根差した本学会の特性と強みを積極的に発信してまいります。

加えて、学会運営の適正化を進めます。私は過去に会則改定ワーキンググループのリーダーとして改定に携わり、適切な規約と柔軟な運用の両方が不可欠であることを痛感しました。この経験を踏まえ、各種規約の作成や改定を進めるとともに、理事会内の意思決定の透明化を図り、権限や責任が一部の理事に偏らない組織づくりを推進します。財務体制の健全化も喫緊の課題です。現在、学会の財政状況は厳しいものがありますが、会員にとって魅力的な学会をつくり、会員数の増加、研修会の充実、経費削減を通して、持続可能な運営を実現いたします。

会員の皆さまの臨床を支え、患者・クライアントによりよい支援を届ける学会となるよう、力を尽くします。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。